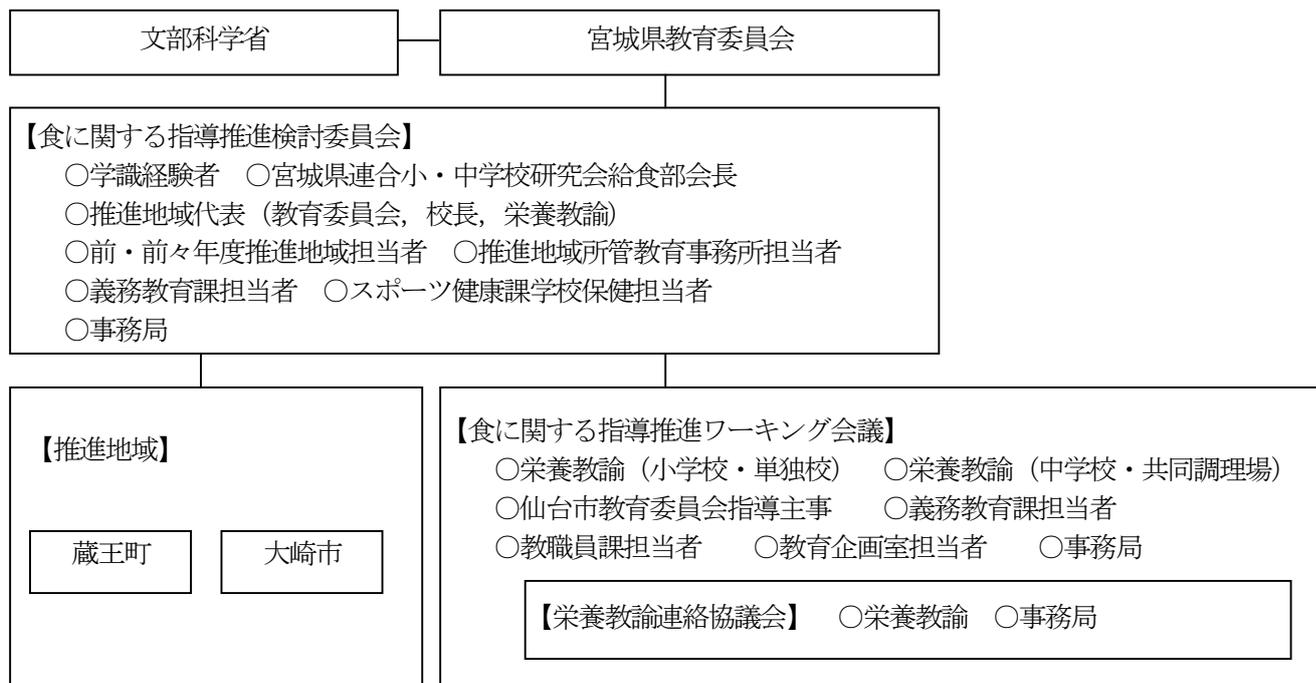


栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	宮城県
再委託先名	蔵王町 大崎市

1. 事業推進の体制



2. 事業内容

テーマ1	宮城県「食に関する指導の普及啓発のための取組」
<p>(1) 実態調査の実施 ・調査内容：①「食に関する指導の全体計画」「年間指導計画」等の整備状況に関する調査を実施 ②全国学校給食週間について取組状況の調査を実施</p> <p>(2) 食に関する指導推進検討会議の開催 (第1回：平成24年7月30日(月)，第2回：平成24年12月18日(火)) 本事業の取組を広い視野で検討するとともに，本県の食育推進の方向性について協議した。会議を通して，推進地域間の情報交換が図られるとともに，教育事務所と連携しながら事業を進めることができた。 今年度は，前・前々年度食育推進地域の代表者を委員に加えることにより，推進地域において当事業が円滑に進められるようサポート体制の強化を図った。</p> <p><食に関する指導推進ワーキング会議の開催> (年3回)</p> <p>① 食育推進啓発カレンダーの作成・配付 学校における食育を推進するため，県内の小学生（支援学校小学部含む）を対象に食育推進啓発ポスターを募集し，ワーキング委員及び教育次長，庁内関係課長による選考を行い，最優秀作品による食育推進啓発カレンダーを作成した。作成したカレンダーは，県内の小・中学校，特別支援学校，教育委員会等に配付し，掲示資料として活用されることを通して，児童生徒の食に関する理解や知識の増進を図った。</p>	

ア 募集したポスター作品の内容

「よくかんで食べることのよさについて啓発するもの」

「いろいろな食品を組み合わせる食べることの大切さについて啓発するもの」

イ 応募があった作品数…66作品

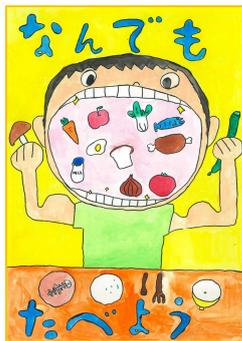
ウ 審査方法…ワーキング委員による1次・2次審査の後、教育次長・庁内関係課長による最終審査を行う。優秀作品（金賞）1点でカレンダーを作成する。次点を銀賞，三位を銅賞とし本課ホームページ等で紹介する。カレンダーはダウンロード可能にし，各学校で活用できるようにしている。

（本課ホームページアドレス：<http://www.pref.miyagi.jp/site/kyouiku/kyuutop.html>）

② 次年度以降の，食育の情報発信の方法について検討する。

ポスター募集及びカレンダーの作成について，児童生徒が直接食育の推進に関わる良い機会になったが，今年度初めての試みであったので定着を図るため次年度も継続して取り組みたい。

《金賞》



《銀賞》



《銅賞》



《食育推進啓発カレンダー》



金賞受賞者へ，当課課長から賞状が授与されました。



(4) 研修会の開催

① 学校給食研修会の開催

・十分な衛生管理を踏まえた学校給食の充実を図り児童生徒の健康で望ましい食習慣の形成に資するため研修会を開催し，「生きた教材」としての学校給食の充実を図るもの。

日時：平成24年7月25日（水）10：00～16：10

対象：市町村教育委員会，共同調理場長，栄養教諭，学校栄養職員，調理員等

内容：講演「災害派遣時における自衛隊給食支援活動について」陸上自衛隊東北方面隊隊員

講義「学校給食の衛生管理について」文部科学省スポーツ・青少年局 担当官

報告「平成23年度学校給食施設巡回訪問の報告」衛生管理指導員

体験発表「全国大会発表者による体験発表」塩竈市調理員，気仙沼市栄養教諭



《講義》



《体験発表》



《巡回訪問の報告》

② 食に関する指導推進研修会の開催

・学校給食を活用した食に関する指導の推進を目的とした研修を行い学校教育活動全体を通じた食に関する指導の充実を図るもの。また，放射能について様々な不安が高まっていることから，放射能の基本的な知識や健康への影響等について正しい理解を深めるもの。

日時：平成24年11月5日（月）10：00～16：15

対象：学校管理職，教職員，市町村教育委員会，栄養教諭，学校栄養職員等

内容：講演「生きる力」～食で育む心と体～ 農林水産省近畿農政局職員

講演「福島原発事故による放射能汚染の食生活への影響とその対策」 東北大学教授

実践発表「平成23年度食育推進地域実践発表」岩沼市

体験発表「東日本大震災後から給食再開まで」石巻市教育委員会，南三陸町学校栄養職員



《講演》



《実践発表》



《体験発表スライド》

(5) 栄養教諭連絡協議会の開催

- ・食に関する指導の取組状況について，栄養教諭間で情報の共有化を図るとともに食育の推進に当たっての現状と課題について協議し，課題解決及び今後の取組の一助とする。

日時：平成25年1月17日（木）10：00～16：00

対象：栄養教諭

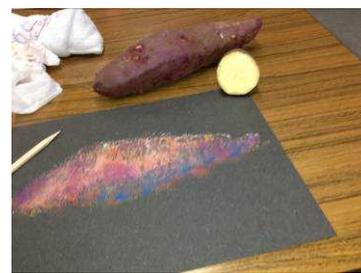
内容：今年度の事業説明

研究協議「食育推進体制を機能させ，継続して学校・家庭・地域が連携し，児童生徒への食育の推進，充実を図るために」

グループ協議テーマ①教職員一人ひとりの取組意識を向上させるためにはどうすればよいか。

②家庭との連携を図り，地域の協力を得るためにはどうすればよいか。

講義演習「素材を感じる～臨床美術に学ぶ～」大衡村立大衡小学校 教諭（臨床美術士）



《講義・演習の様子「初めて知る分野に参加者は興味津々。食育との共通点が多く満足度も高かった」》

(6) 推進地域の指定

栄養教諭が配置されている地域の中から，今年度は，小学校・単独校の実践として「大崎市立鳴子小学校」，中学校・共同調理場の実践として「蔵王町立円田中学校」を指定し，実践研究を行った。

地域の実態に合わせたテーマを設定し，学校・家庭・地域の連携を図りながら課題解決に向けた実践的な取組を行った。どちらの研究も，発達段階や地域の特徴の表れた取組となった。

※具体的な内容については，推進地域からの報告によるものとします。

テーマに共通する具体的計画

(1) 栄養教諭を中核とした食育推進のための組織作り（食育推進地域の指定）

食育推進地域（2地域）を指定し，栄養教諭を中核とした学校・家庭・地域が連携した取組を実践し，その取組や成果を県内の他地域に研修会等を通して広める。

*次年度の「食に関する指導推進研修会」で実践発表を行うこととしている。

研修会での実践発表を通じて，教職員や教育委員会等の理解を高め，体制の整備に役立っていると思われる。

本事業における評価指標と考察

1 実態調査の結果について

- ・食に関する指導の全体計画の整備状況（整備されている学校の割合）

	H20.10.1 現在	H21.5.1 現在	H22.5.1 現在	H23.5.1 現在	H24.5.1 現在
小学校	87.8%	96.2%	99.3%	99.1%	99.3%
中学校	78.4%	89.5%	95.8%	98.1%	98.1%

*食に関する指導の全体計画については、ほぼ、全ての学校において整備は完了している。今後は、推進地域の研究実践など紹介しながら、各学校の実態にあった、より実践に結びつく計画となるよう、助言を行い、各地域において食に関する指導の一層の充実発展を図っていきたいと考えている。

- ・学校給食年間指導計画を有する学校割合（学年別にはとられない）

小学校…91.5%

中学校…92.4%

- ・食に関する指導担当組織を有する学校割合

小学校…63.3%

中学校…53.8%

*各学校、年間指導計画のもと学校給食の運営が図られているものと考えられる。しかし、組織的な運営についてはまだまだ働きかけが必要と考えている。

2 研修会の開催について

- ・研修目的を、学校給食管理と食に関する指導に分け開催することにより、参加者やテーマを絞ることができ、大変有意義な研修ができるようになってきている。事後アンケートの結果では、どちらの研修会も95%以上の満足度であった。

本事業の成果

1 研修会の開催について

東日本大震災から、1年が経過した。地域によっては、解決できない課題もあるが、県内の全ての学校給食実施校においては、4月から震災前に近い形で給食が再開されている。そのため、今年度の研修会は、震災を意識した内容とした。

様々な状況下で給食再開している県内の現状を踏まえ、学校給食における衛生管理については、特に重要と考え文部科学省の担当官による講義を行った。また、あまりにも大きな災害だったため、避難所と指定されていない学校にも避難者が集まるなど、緊急対応に迫られた職員も多かったことから、今後、同様の事態が起こった場合の参考になるよう、被災地支援を行った自衛隊員（物流担当者）の講演や、それぞれに関連する内容として、巡回指導報告及び体験発表を行った。

「マニュアル作りの参考にしたい」「資料を学校職員と共有したい」など感想があり、大変有意義な研修会となった。

11月に開催された食に関する指導推進研修会においては、ユーモアを交えながら身近な食について出前講座など行っている農林水産省関係職員を講師に招き、「生きる力～食で育む心と体～」と題し講演をいただき、「食に関する指導の実践」や「食への感謝」「食に携わる仕事にしていることのすばらしさ」などを再認識できる内容だった。また、あわせて、昨年度の食育推進地域の実践発表も行った。さらに、放射能被害の現在の状況を正しく知ること、地場産物の活用や学校給食の更なる質の向上を図るため、大学の専門家による講演や、給食再開まで大きな課題を抱えた2つの市町の体験発表を行った。

事後のアンケートに記載された感想には、「改めて食の大切さを感じた。食に関して家庭間での差が大きくなっているのではと不安になった。（教員として）何かできることからやってみようと思った」など、食に関して様々な視点から考えるきっかけとなった。また、「有事の備えを考えるのに大変参考になった（養護教諭）」など、防災や有事の備えについても、意識を深めることができた。

2 推進地域の指定

食に関する指導における体制づくりを推進するため、栄養教諭が配置されている地域を食育推進地域に指定し、実践研究を行った。過去の取組事例から、市町村教育委員会が中心となって体制づくりを行うことで、取組の広がりや継続が図られている。今年度の食育推進地域においても体制づくりを推進しながら、計画的継続的な取組となるよう支援してきた。栄養教諭が未配置の市町においても同様に食育が推進されるよう、実践発表等工夫を図り実施していきたい。

3 食育啓発ポスターの募集及び食育啓発カレンダーの配付

ポスター募集を行ったことにより、児童の食への関心、食への理解度等を推測することができた。また、優秀作品によるカレンダーの作成は、学校現場の主体的な取り組みを促す点において、今後の食育推進事業への協力体制づくりにも役だったのではないかとと思われる。継続して取り組むことで、定着を図っていきたい。

4 食に関する指導の一層の充実

本事業をとおして、食に関する指導の一層の充実が図られるものと考えている。

今後の課題(今回の事業を実施した結果、新たに見えた課題)

ア 食に関する指導の計画について

- ・全体指導計画については県内のほとんどの学校で作成は完了していると言える。今後は、より学校の実態にあった計画となるよう、促していくと共に、先進的な事例等を紹介していく必要があると考えている。
- ・各学校においては、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等との関連を図りながら、学校や地域の実態に応じたものとなるよう、また、地域・家庭と連携し、児童生徒の実践力を養う取組となるよう実践をとおしてさらに内容を検討していく必要がある。
- ・発達段階に応じた継続的な指導としていくために、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の連携を更に図っていく必要がある。

イ 指導内容の充実について

- ・食育推進検討会議等を通して県教育委員会としての食育推進の方向性を検討していく必要がある。
- ・栄養教諭連絡協議会を通して、栄養教諭を中核とした食育の推進の成果と課題を整理し、一層の充実に努めていきたい。
- ・食に関する指導の進め方等について、教職員や学校給食関係者を対象とした研修会を開催し、対象者の資質を高めると共に、推進地域の実践や県教委の食育推進の方向性等を全県に広める必要がある。

ウ 学校給食の更なる充実について

- ・学校給食を「生きた教材」として活用するためには、安全でおいしい学校給食の提供は不可欠である。それぞれの給食施設において工夫を凝らして実施されているところではあるが、実態の把握に努めながら、研修会での講演や実践発表により、更なる学校給食の充実を目指す必要がある。